

今後の検討内容（素案）

I. ライフスタイル関係

1. ライフスタイル・生活の回顧と展望

- ・ 戦後 60 年のライフスタイル・生活を考え、今後 45 年（2050 年まで）を展望
- ・ これまでのライフスタイル・生活の中で、「変わりゆくもの、変わらないもの」の見極め
- ・ 「社会経済」、「家族」、「働き方」、「住まい方」等の変遷を確認し、今後を展望
- ・ 「年中行事」、「通過儀礼」の変化からみたライフスタイル・生活についても考察

2. 人口関係

- (1) 適正人口、総合国力等を踏まえた「静止人口」の考え方
- (2) 「4つの人口」（一人4地域人社会）のコンセプト
- (3) 国土計画からの少子化対策の推進等

3. 多様な価値観の中での「多選択社会」のライフスタイル

- (1) 長いライフサイクルの中での自立した生活設計、特に、労働形態、家族形態、育児・介護ケアの仕組み、居住形態
- (2) 団塊の世代の今後の暮らし方、生き方
 - ・ 高齢期の2つのステージ（アクティブ高齢期、要介護高齢期）の暮らし方、生き方
- (3) 「多業、近居、二地域居住」のコンセプト

4. 既存二報告書（「二地域居住」、「異質文化交流」）で提言した施策の具体化

- (1) 「二地域居住」促進のための「ふるさとサポーター制度」
- (2) 危機管理対応型の「二地域居住」
- (3) 新しい異質文化交流促進策

5. 「多選択社会」のライフスタイルの指標等

- (1) 「家族」「働き方」「住まい方」等の選択ニーズと障害（過去・現在・将来）
- (2) 「多業」「近居」の現状推計と将来イメージ
- (3) 「年中行事」・「通過儀礼」についての意識の変化

(注) 「静止人口」とは、「人口の増減がなくなり、変動が静止した状態の人口」をいう。

「多選択社会」とは、「自らの価値観によって、多様なライフスタイルの選択が可能な社会」を考えている。

II. 都市関係

人口減少下の都市圏のあり方

- (1) 地方都市圏のあり方
 - ・ 過去の生活圏の評価、都市圏と生活の将来像
 - ・ 生活圏の持続可能なマネジメントのための「かたち」と「しくみ」
- (2) 大都市圏のあり方
 - ・ 高齢者が暮らしやすい都市の形成
 - ・ 持続可能な大都市圏の形成（エネルギー、環境問題の対応）
 - ・ 土地利用の修復（人口減少が進行する大都市圏郊外部への対応、緑の保全）
 - ・ 国際競争力のある大都市圏の形成